

妊活は情報収集が重要です

さくらレディースクリニック田園町
副院長

生殖医療専門医・指導医 上垣 崇 (うえがき たかし)

鳥取県東部 不妊専門相談センター 不妊に関する勉強会・相談会
令和7年11月9日(日) 於 鳥取県立図書館

本日の内容

当院の紹介

妊活に関する情報収集

不妊治療の保険適用

当院における治療方針・考え方

ART統計・全国データ

当院の紹介

【名称】

さくらレディースクリニック田園町

【所在地】

鳥取市田園町



当院の紹介

【沿革】

平成28年(2016年)

令和2年(2020年)

令和7年(2025年)

分娩取扱有床診療所として開院

分院を開設

生殖補助医療ユニットを増築

生殖医療専門医が赴任

生殖補助医療を開始



本院



分院(別館)

当院の紹介

【当院の特徴】

- ・複数の医師による外来2診体制。
- ・不妊治療以外に若年～閉経周辺期の方や妊産婦さんが通院。子宮内膜症や子宮筋腫、月経困難症、PMS、更年期症候群といった幅広い世代の女性特有の疾患の管理。
- ・挙児希望で来院される方の他、婦人科疾患通院中の方もライフステージに応じて妊娠計画相談や不妊症検査を実施。
- ・不妊治療後の妊娠・出産・産後の管理、次回妊娠の相談・計画。
- ・女性を生涯にわたってサポート。

本日の内容

当院の紹介

妊活に関する情報収集

不妊治療の保険適用

当院における治療方針・考え方

ART統計・全国データ



妊活に関する情報収集

妊活する際に知っておきたいこと

- ・妊娠の機序 子宮? 卵巣? 卵管? 排卵? 卵子? 精子?
- ・月経周期のいつが妊娠しやすい?
- ・不妊とは? 不妊じゃないカップルの周期当たりの妊娠率は?
- ・不妊治療の内容
 タイミング法 人工授精 生殖補助医療
- ・不妊治療の保険適用 年齢・回数制限?
- ・不妊治療の自治体助成は? 生命保険は?
- ・不妊治療を受けられる施設は?
- ・不妊治療の専門医は?

妊活に関する情報収集

- ・妊娠成立の機序、不妊症の概要、不妊治療の概要など
日本生殖医学会のHP
→生殖医療Q&A2025 日本生殖医学会が医学論文(科学的裏付け)に基づいて作成
- ・助成・支援金制度→各自治体HPや窓口で確認

ネットで検索する際は、
情報の出どころ、科学的
裏付けに留意

妊活に関する情報収集

・不妊治療を受けられる施設

一般不妊治療は多くの産婦人科で対応可能であるが、専門性の高さを求めるなら日本産科婦人科学会ART登録施設や日本生殖医学会認定生殖医療専門医が在籍する施設がオススメ

日本産科婦人科学会ART登録施設

西部:

ミオ・ファティリティ・クリニック 彦名レディスライフクリニック
鳥取大学医学部付属病院

東部:

タグチIVFレディースクリニック 鳥取県立中央病院

さくらレディースクリニック田園町

・助成・支援金制度→各自治体HP

本日の内容

当院の紹介

妊活に関する情報収集

不妊治療の保険適用

当院における治療方針・考え方

不妊治療の保険適用

一般不妊治療(人工授精を含む)
年齢制限・回数制限なし

生殖補助医療(体外受精、顕微授精、胚移植)

40歳未満の場合は子ども1人につき最大**6回まで**。

40歳以上43歳未満の場合は子ども1人につき最大**3回まで**。

(胚移植の回数でカウント)

39歳までに治療を開始している場合は40歳に達しても通算6回可能。

回数上限が残っていても43歳に達すると治療中の周期のみ保険適用となる。

子ども1人というのは無事に出産に至った場合の他、12週以降の死産も含む。

妊娠成立しても12週未満の流産では通算回数(回数上限)はリセットされない。

体外受精、顕微授精の費用について

受診時の診療内容、使用薬剤、採卵で得られた卵子の数、顕微授精の有無・個数、培養胚数、凍結胚数など治療経過・内容によって変動あり

卵巣刺激・採卵＋胚凍結＋融解胚移植でおよそ40～60万円前後×3割負担

(月々の支払額によって高額医療制度の利用可能)

本日の内容

当院の紹介

妊活に関する情報収集

不妊治療の保険適用

当院における治療方針・考え方

ART統計・全国データ

当院の不妊治療方針・考え方

排卵障害→排卵誘発剤

性交障害→ED治療剤、人工授精

というように不妊原因が単一因子である場合には、一般不妊治療が奏功する可能性が期待できるが、難治性の機能的な不妊が内在しているケースが多い。

一般不妊治療の期間を決めて全周期妊娠に向けて取り組む。

生殖補助医療に移行したら、なるべく保険適用内での妊娠を目指し、妊娠成立まで全周期治療を継続する(希望に応じて周期調整可)。

保険適用終了後は助成回数制限などに応じて治療計画を相談。

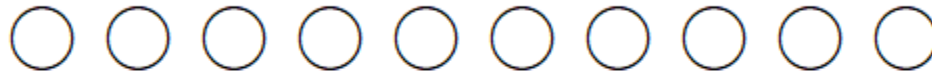
当院の方針(生殖補助医療)

- ① 卵巣刺激はPPOS法が主軸
(簡便、早発排卵リスクが少ない)
- ② 良好胚盤胞 (Gardner分類BB以上)のみを
全胚凍結・融解胚移植(胚移植回数制限を考慮)
新鮮胚移植はほとんどしない
- ③ 全周期卵巣刺激
なるべく保険適応内で良好胚盤胞獲得・妊娠を目指す

卵巢刺激法

PPOS(Progestin-Primed Ovarian Stimulation)

卵胞刺激(自己注射)



排卵抑制
(黄体ホルモン製剤内服)

新鮮胚移植
できない

採卵

トリガー
(自己注射)



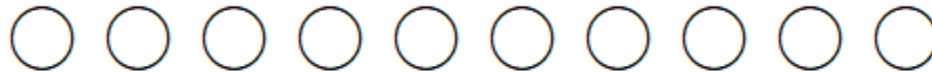
× × × × ×

月経

卵巢刺激法

GnRH agonist short

卵胞刺激(自己注射)



排卵抑制
(GnRHアゴニスト点鼻)

新鮮胚移植
できる

採卵

トリガー
(自己注射)

× × × × ×

点鼻が面倒と
いう方もある

月経

卵巣刺激法 GnRH antagonist

卵胞刺激(自己注射)



採卵

排卵抑制
(GnRHアンタゴニスト
自己注射)

トリガー
(自己注射)



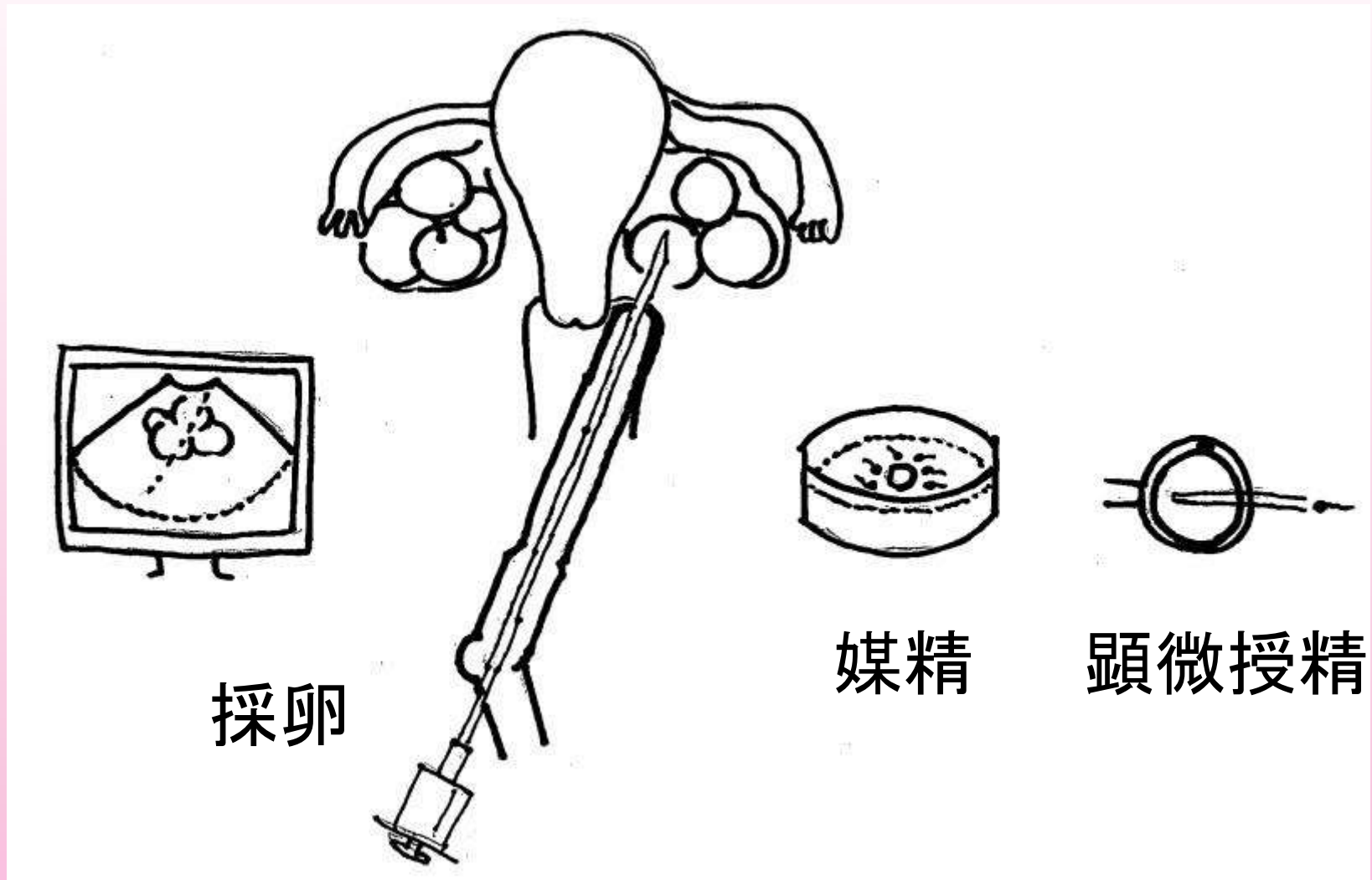
× × × × ×

月経

新鮮胚移植
できる

早発排卵に備えて
早めの卵胞check
が必要

生殖補助医療の実際



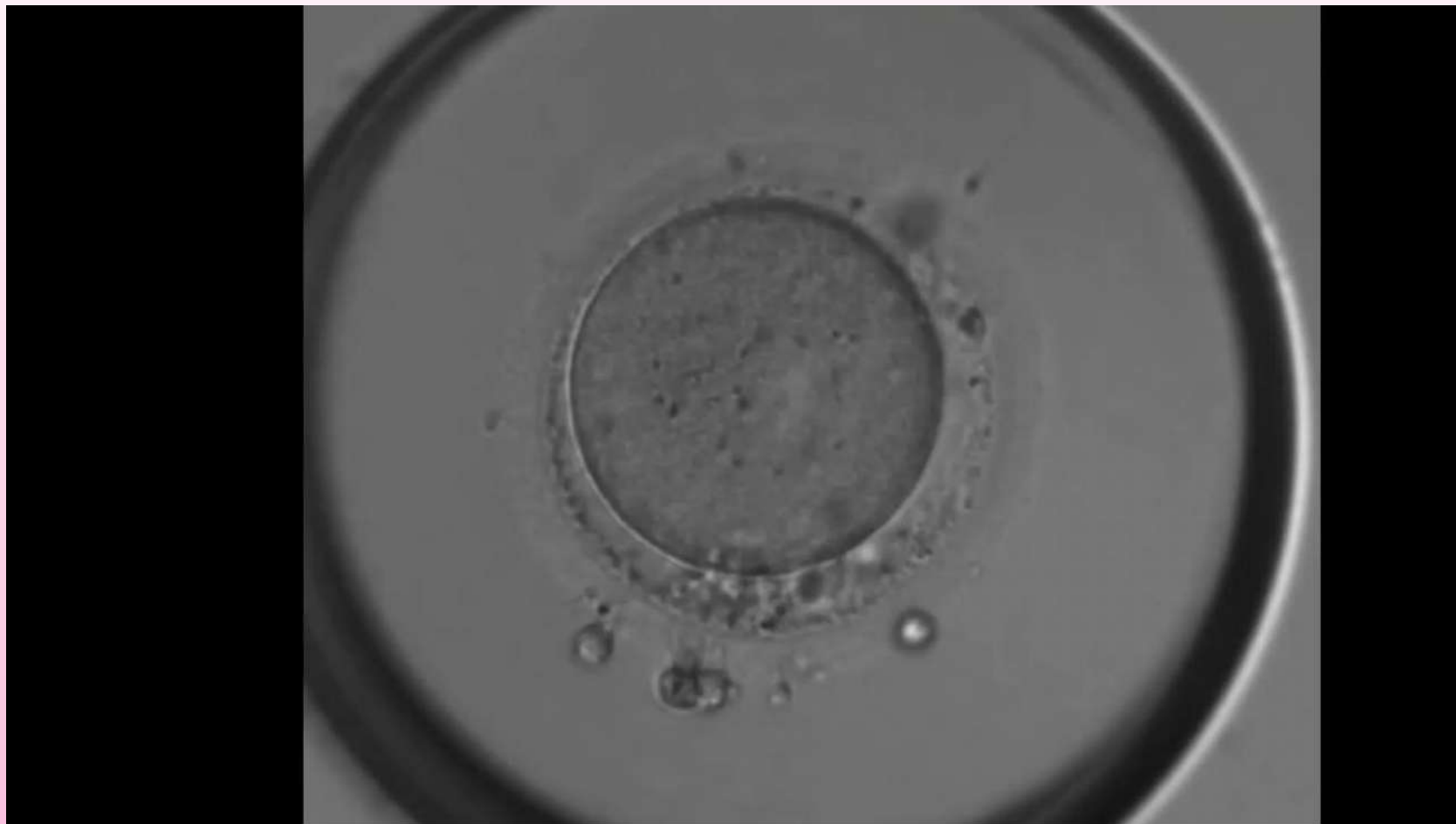
麻醉：卵胞数や希望に応じて静脈or局所麻醉を選択

顯微授精

ICSI (intracytoplasmic sperm injection)

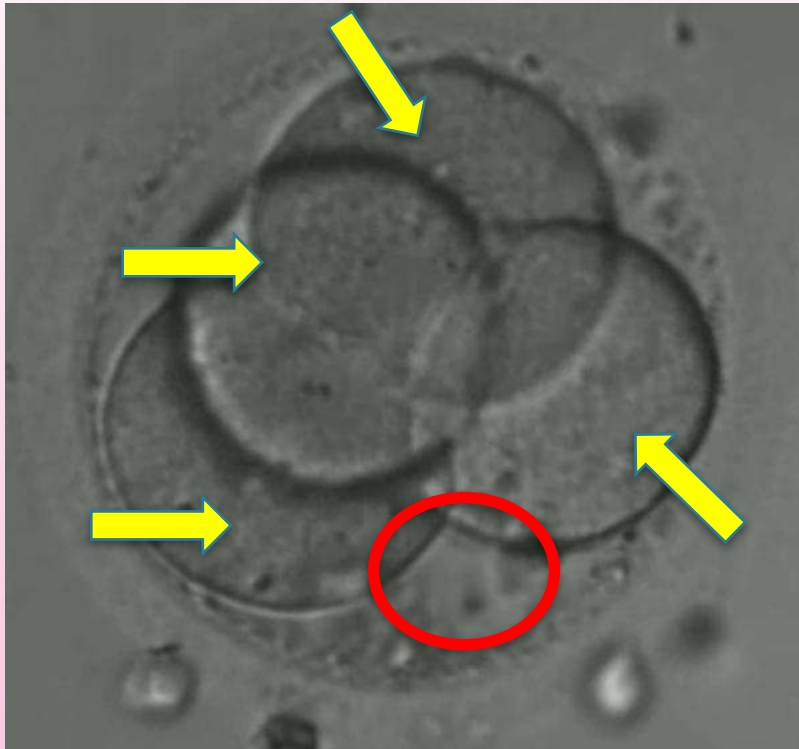


受精から分割(タイムラプス撮像)



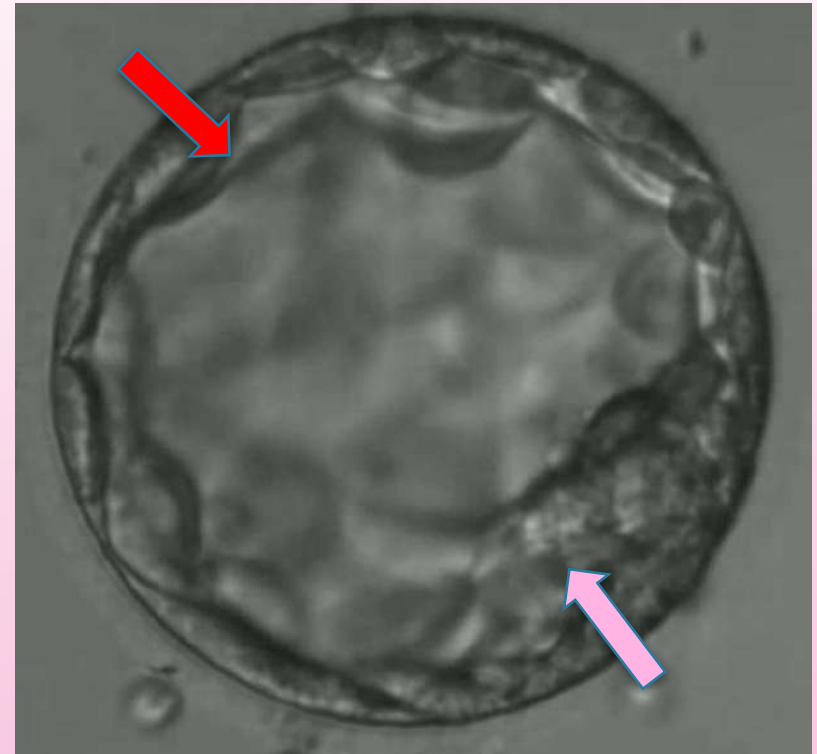
胚の形態評価

分割期胚



- 割球が均一
- フラグメントが少ない

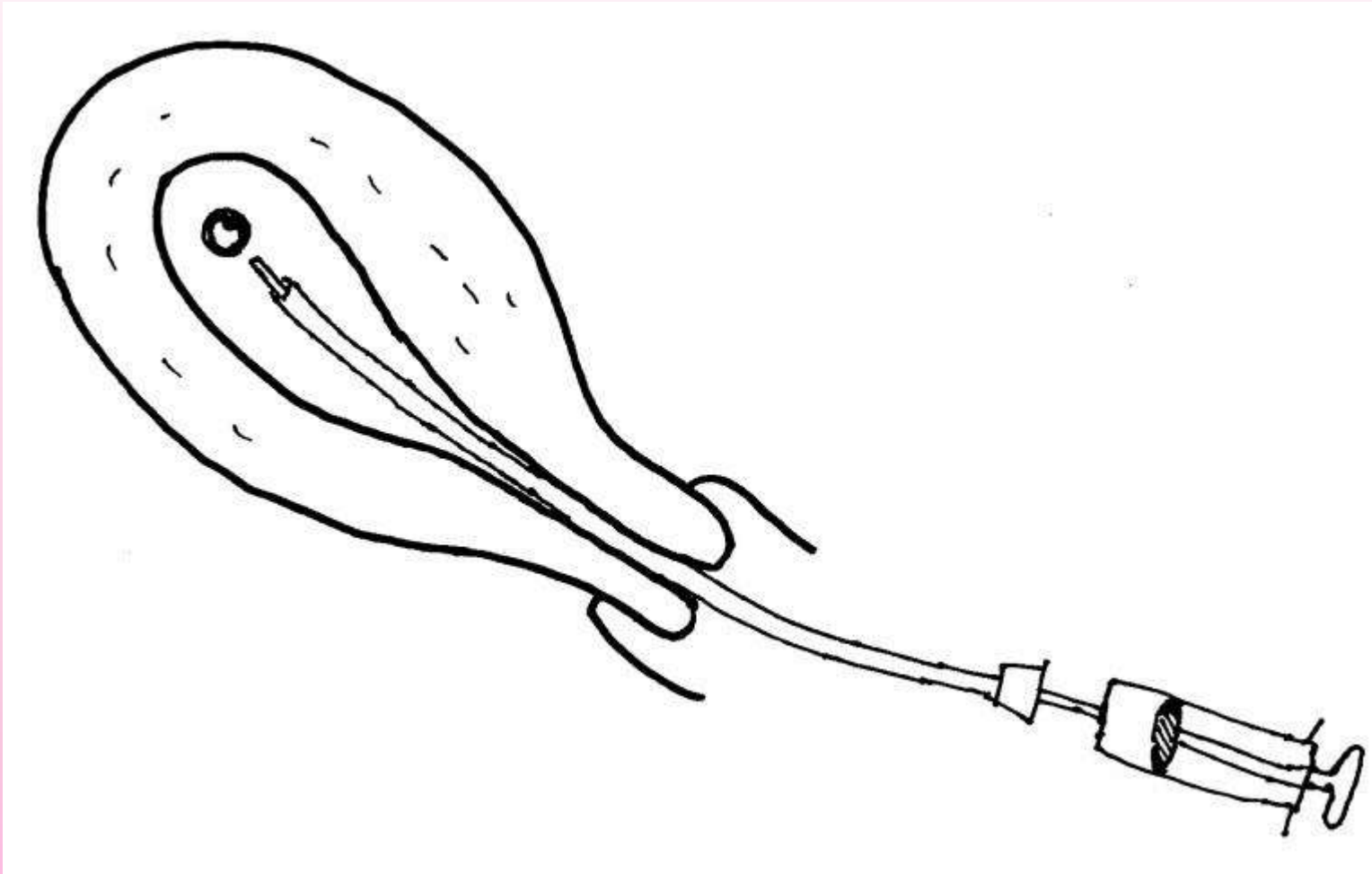
胚盤胞



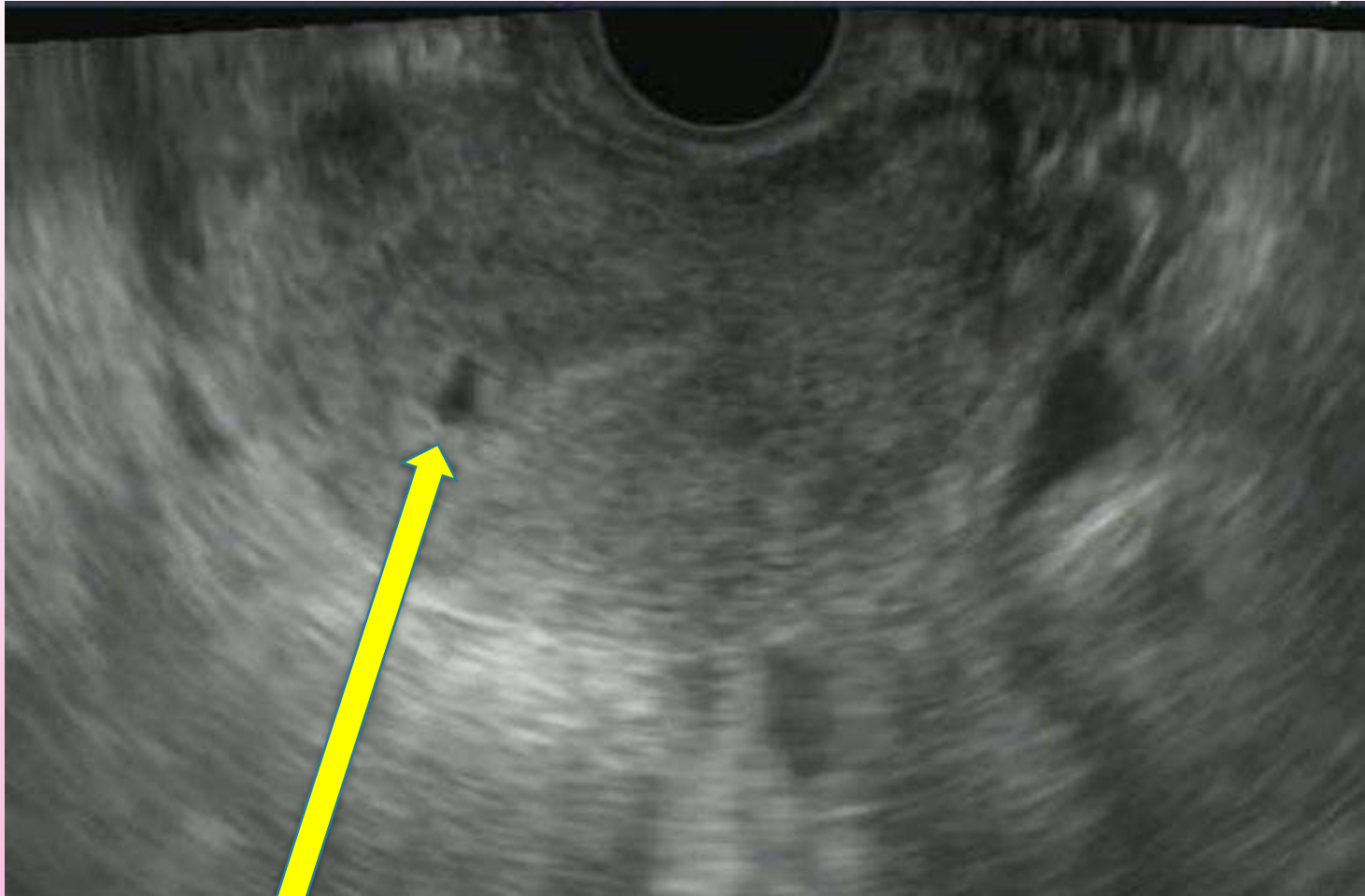
- 細胞数が多い
- 細胞数が多く密着

胚移植

ET(Embryo Transfer)

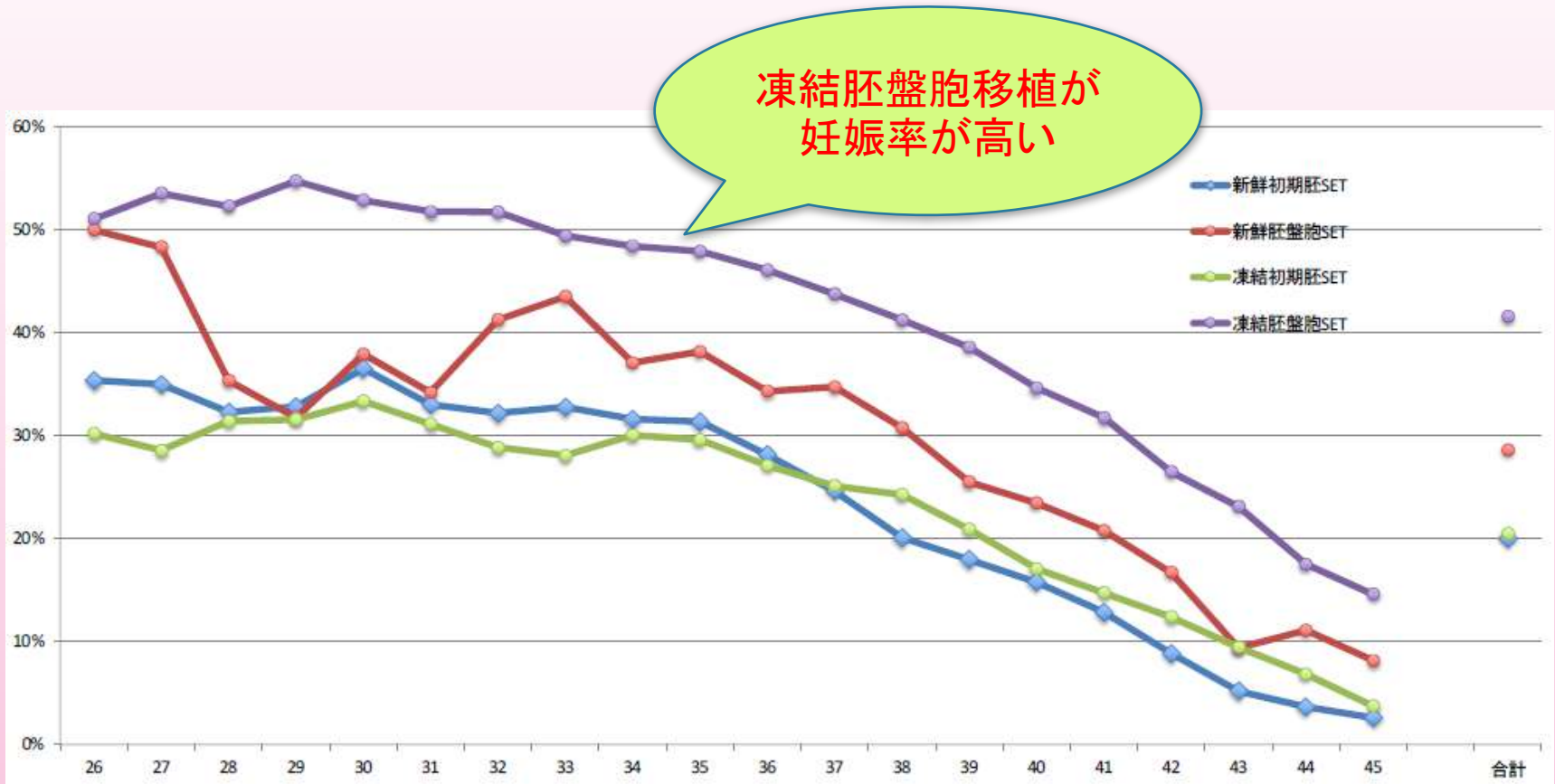


妊娠成立

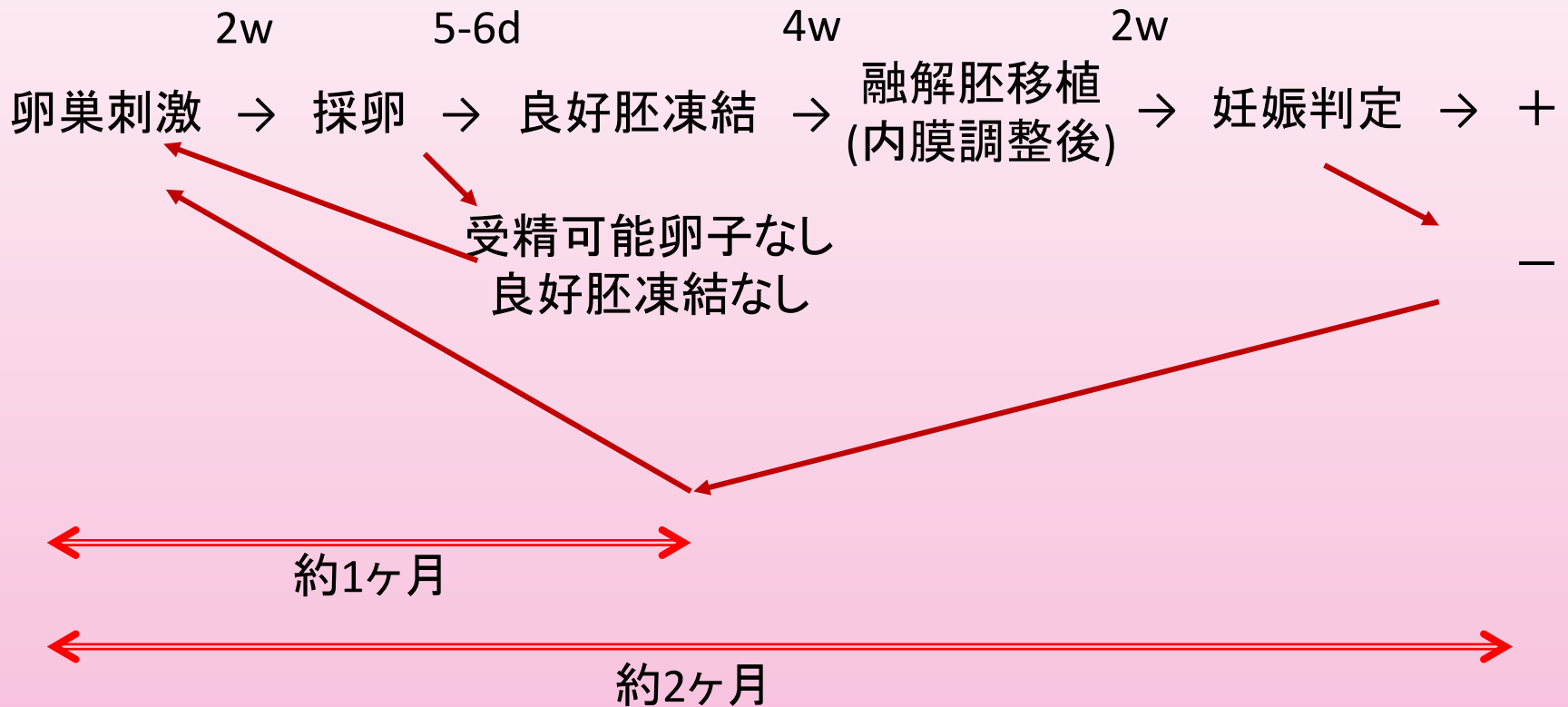


胎囊

移植胚ステージ別妊娠率 2021



当院における治療サイクル



当院の方針(生殖補助医療)

- ① 卵巣刺激はPPOS法が主軸
(簡便、早発排卵リスクが少ない)
- ② 良好胚盤胞 (Gardner分類BB以上) のみを
全胚凍結・融解胚移植(胚移植回数制限を考慮)
新鮮胚移植はほとんどしない
- ③ 全周期卵巣刺激
なるべく保険適応内で良好胚盤胞獲得・妊娠を目指す

本日の内容

当院の紹介

妊活に関する情報収集

不妊治療の保険適用

当院における治療方針・考え方

ART統計・全国データ

不妊治療の保険適用

一般不妊治療(人工授精を含む)
年齢制限・回数制限なし

生殖補助医療(体外受精、顕微授精、胚移植)

40歳未満の場合は子ども1人につき最大6回まで。

40歳以上43歳未満の場合は子ども1人につき最大3回まで。

(胚移植の回数でカウント)

39歳までに治療を開始している場合は40歳に達しても通算6回可能。

回数上限が残っていても43歳に達すると治療中の周期のみ保険適用となる。

子ども1人というのは無事に出産に至った場合の他、12週以降の死産も含む。

妊娠成立しても12週未満の流産では通算回数(回数上限)はリセットされない。

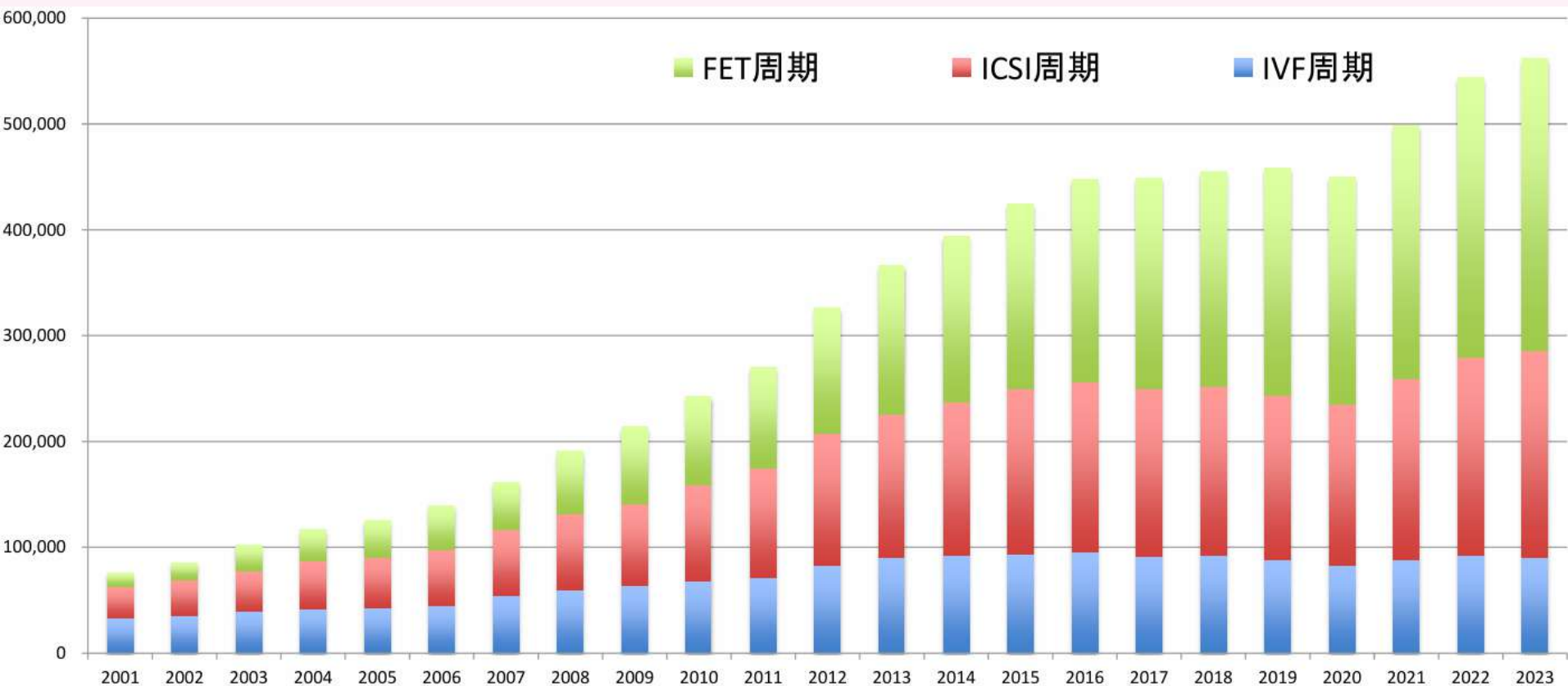
体外受精、顕微授精の費用について

受診時の診療内容、使用薬剤、採卵で得られた卵子の数、顕微授精の有無・個数、培養胚数、凍結胚数など治療経過・内容によって変動あり

卵巣刺激・採卵＋胚凍結＋融解胚移植でおよそ40～60万円前後×3割負担

(月々の支払額によって高額医療制度の利用可能)

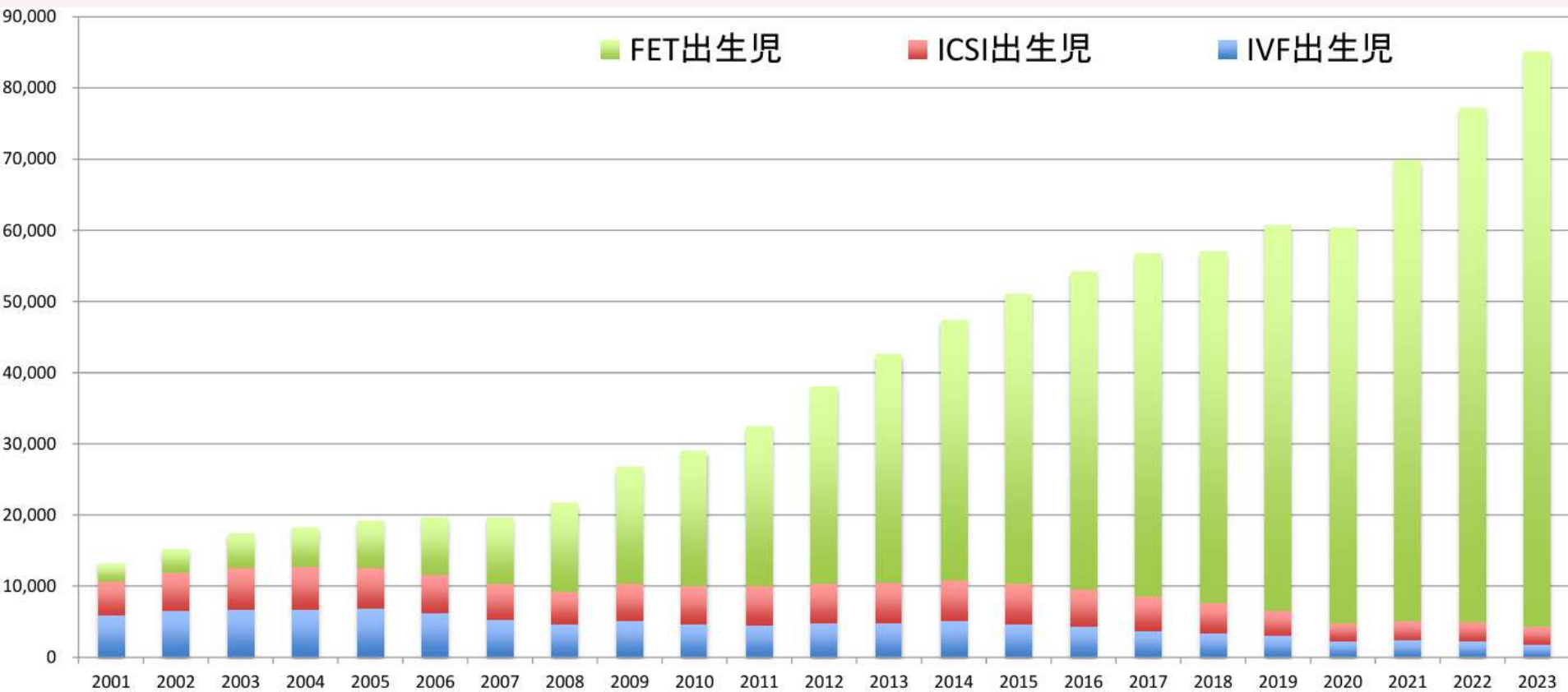
年別ART件数



日本産科婦人科学会

2023年 総治療周期数 56万1664周期

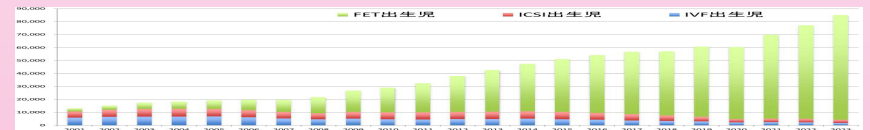
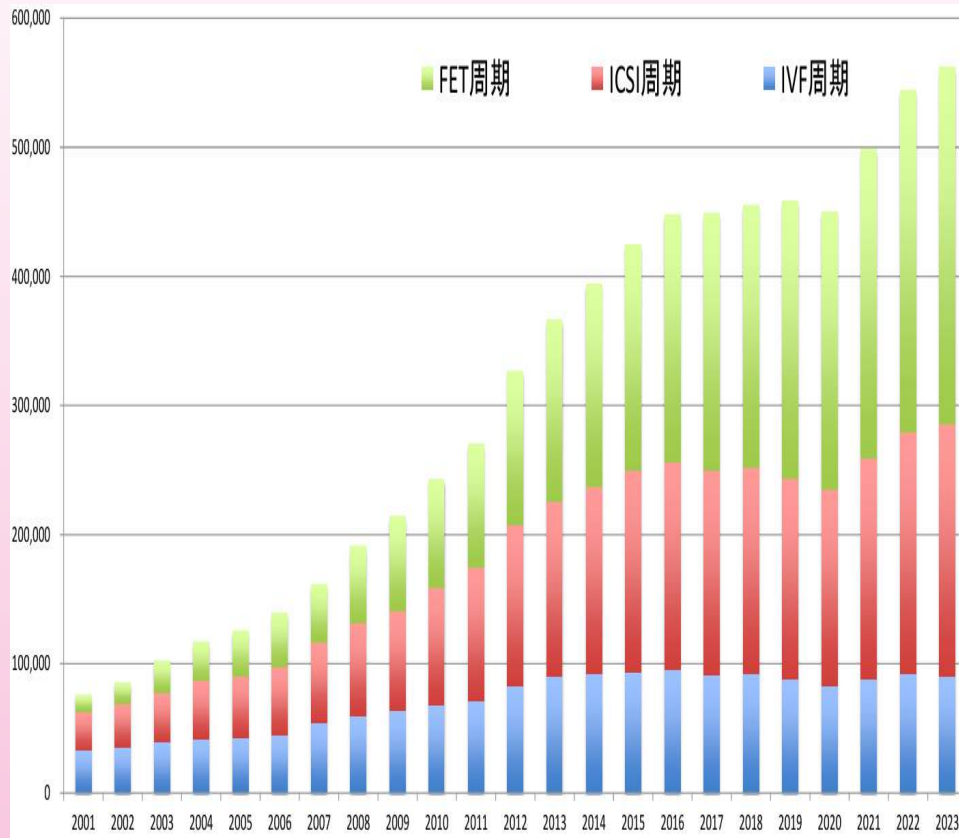
年別ART出生児数



日本産科婦人科学会

2023年出生数 75万8631人 ART出生児数85048人

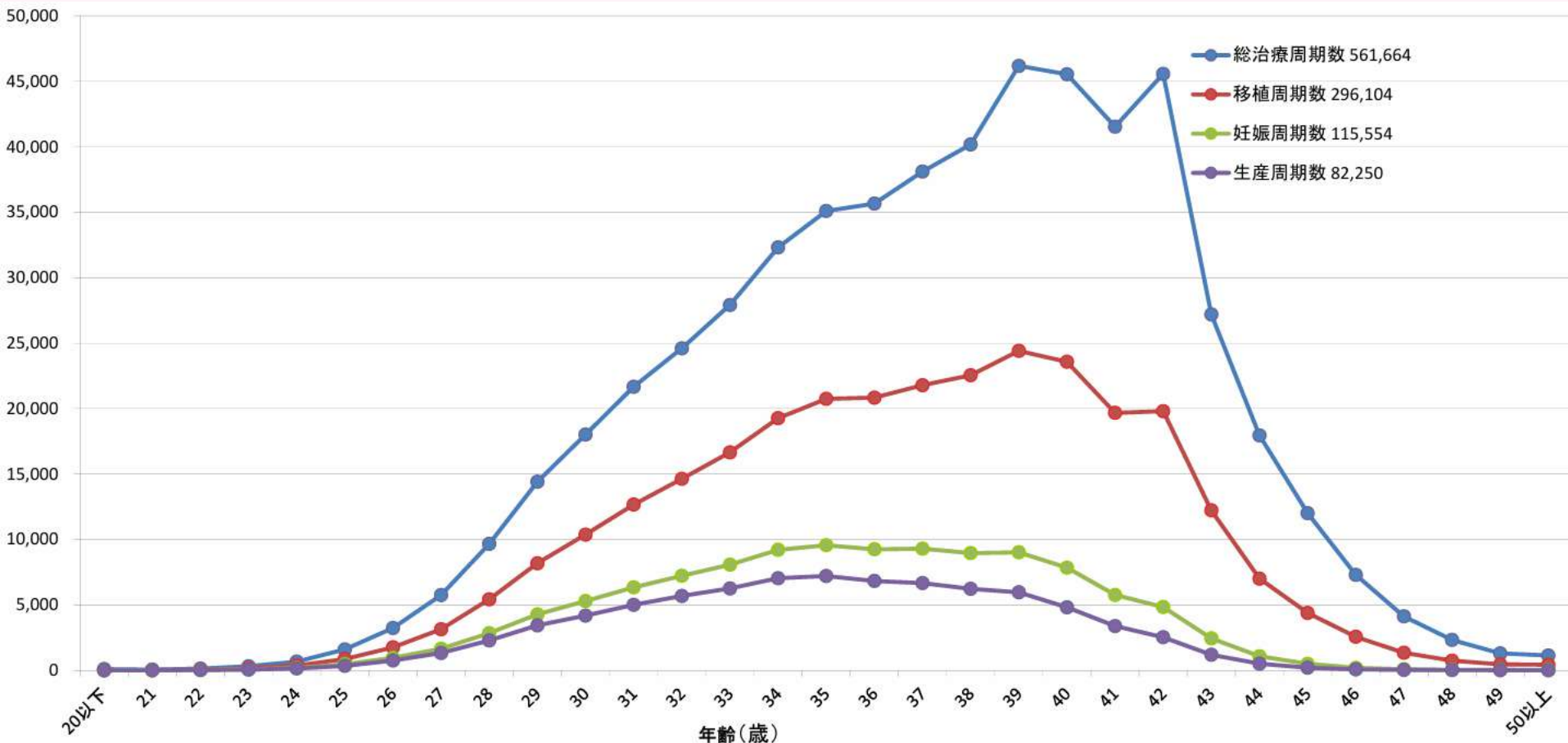
年別ART件数とART出生数の比較



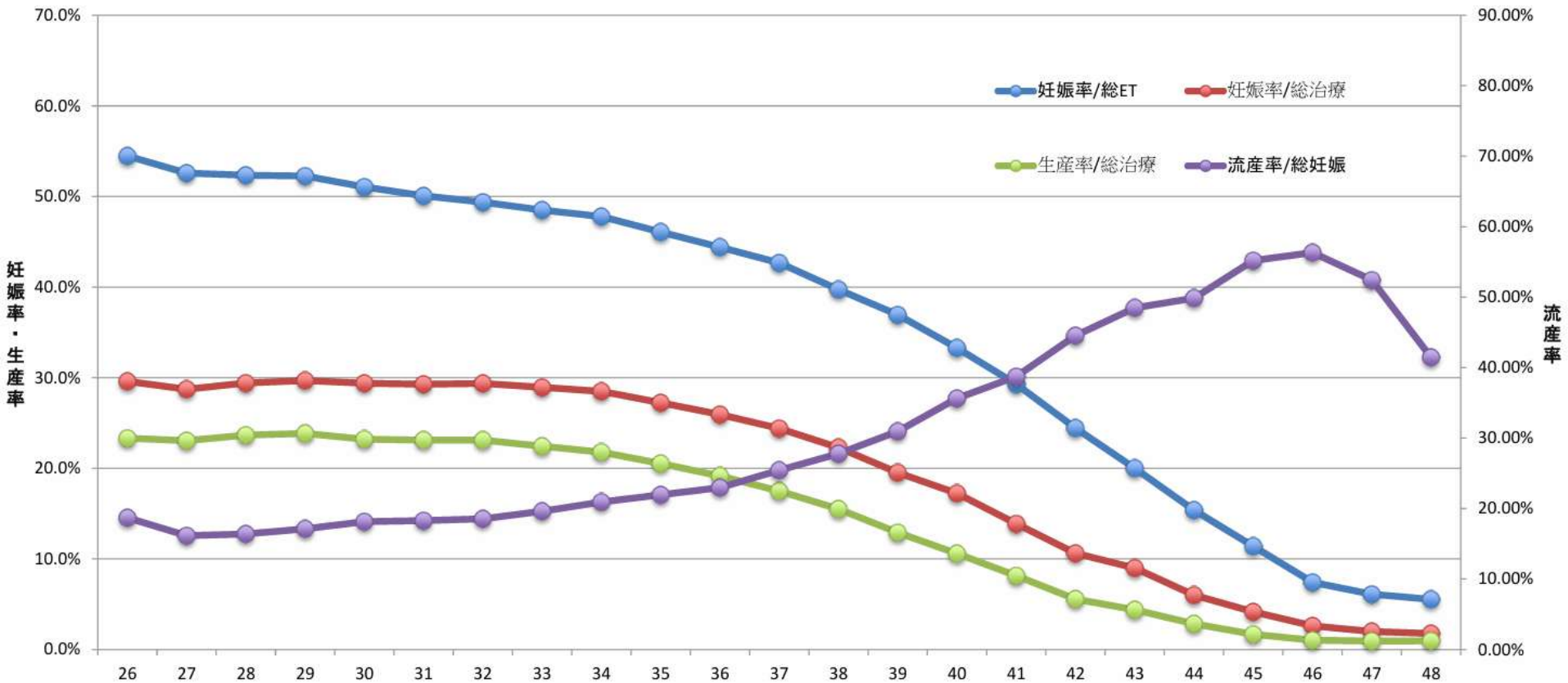
日本産科婦人科学会

総治療周期数 56万1664周期 ART出生児数85048人
 (2023年)

年齢別 治療周期数2023



妊娠率・生産率・流産率 2023



全国データの考察

保険適用後に治療周期数・出生数が圧倒的に増えた
(特に42歳以下)

保険適用回数上限のため39歳と42歳に治療周期数のピークが出現

ART移行が早まり治療成績が上昇傾向

まとめ

妊活では妊娠成立の機序や不妊に関する正しい情報を収集しながら臨みましょう。

(日本生殖医学会HPの生殖医療Q&Aがオススメ)

不妊治療を受けられる施設:

一般不妊治療は多くの産婦人科で対応可能であるが、専門性の高さを求めるなら日本産科婦人科学会ART登録施設や日本生殖医学会認定生殖医療専門医が在籍する施設がオススメ

当院では婦人科疾患管理、不妊検査・治療、妊娠出産、次回妊娠希望に応じた通院管理が可能。

ご清聴ありがとうございました。



一緒にサクラを咲かせましょう！！

さくらレディースクリニック田園町